

ファンドレイジング — ボルネオ島の森林伐採を防ぐために学校ができること



ファンドレイジング
…バナナ…
自分のチャレンジ…
バナナ…
募金箱…

「ボルネオ島の熱帯雨林が毎日ものすごいスピードで消えていく。その為に、地球温暖化はどんどん進み、棲家を無くしたオランウータンのいなくなる日は刻々と近づいている」この現状を少しでも多くの人に知ってもらいたい、それを阻止するための基金を集めたい、そんな思いから生まれたのがポンゴホゴホゴチャレンジです。そしてこのチャレンジの主役は他でもない、日本の生徒達です。寄付金を募ることを「ファンドレイジング」と言いますが、生徒達に、これらの問題に向き合い、独自のファンドレイジングを計画し、活動することで、自分達が持つ無限の可能性に気づいてほしいのです。ファンドレイジングは、協調性、行動力を学び、自分の知識、スキル、情熱を現実社会に発揮するのに絶好のアクティビティです。

ファンドレイジング・アイデア

個人

- ・自分の好きなことを我慢することで寄付を募る。
(一週間TVを我慢する/ゲームを一ヶ月やらない!等)
- ・自分で決めたチャレンジをやり遂げることで寄付を募る。
(期末テストで1問合っているごとに10円の寄付/竹馬で1キロ歩くごとに1000円!等)
- ・週に一度、普段よりも安いお弁当を購入し、余った分を寄付する、等。

クラス

- ・募金箱をクラスに設置し、みんなの興味を引くようなアイデアや、楽しく募金できるようなシステムを作る。
 - ー “言ってはいけない言葉”を決めて、誰かがその言葉を使うごとに10円寄付する。
 - ー 英語のクラスで日本語を話したら10円寄付する。
 - ー サイレントチャレンジ
ホームルームや授業の終わりに、クラスのみみなで5分間沈黙を守れるかというチャレンジする。
もし出来なければみんな100円ずつ寄付。
もし出来たらクラスのみみなはご褒美をもらえる。
(その日の宿題は無し◎など)

学校

- ・テーマを決めてフリースデー(制服を着なくていい日)を作る。
ー 森やオランウータンを助けるという意味表示として緑色(森の色)の服を着て100円を寄付、オレンジ色(ポンゴ色)の服を着て100円を寄付、等
- ・家族や友達にスポンサーになってもらい、自分達が続けて歩いた距離/泳いだ距離/縄跳びをした回数によって寄付をしてもらう。
- ・学校のプラスバンドやチアリーディング部、演劇部などでスクールコンクール/ダンスパフォーマンス/演劇パフォーマンスなどを開催し、鑑賞してもらう人達から入場料のかわりに寄付を募る。
- ・文化祭で、インフォメーションルーム等を設けてこのチャレンジの事や森林伐採などの世界で起きている問題について、訪れた人に知ってもらう機会を作る。

1000円で出来ること=1ヘクタール(10,000平方メートル)分の熱帯雨林
～1円からはじまる希望への第一歩、踏み出してみませんか?～
(このデータは現在の、ボルネオ島カリマンタン州カティガン森の土地価格に基づいています。)



みんなで力を合わせれば、“この問題”に対する
生徒達の“出来ない”は“出来る”に変わります



BOS日本はこのチャレンジを応援しています